

岡山市横断歩道橋長寿命化修繕計画（令和6年6月）

1. 背景

市内の横断歩道橋は、高度経済成長期から80橋建設（うち1橋撤去）されており、このうち2024年4月現在、市が管理する架設後50年以上経過するものは44橋で、今後、補修補強費用が大幅に増加することが予想されます。

このため、高齢化した橋梁に対して適切な点検と評価に基づく補修や補強を実施することにより、橋梁の長寿命化を図り、道路橋梁の安全安心を確保するとともに、多額となる補修補強費用を低減・平準化する必要があります。

2. 岡山市横断歩道橋長寿命化計画の対象

長寿命化修繕計画の対象	北区	中区	南区	東区	合計
横断歩道橋	29 (30)	15	20	15	79 (80)

※()内は撤去前の施設数

3. 計画期間

本計画の期間は10年とします。

4. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

(1) 健全度把握の基本的な方針

健全度の把握については、横断歩道橋の架設年度や立地条件等を十分に考慮して実施するとともに「岡山県横断歩道橋点検マニュアル(案)平成27年8月※」に基づいて定期的に点検を実施し、橋梁の損傷を早期に把握します。

※点検要領やマニュアル等の改訂版に基づき定期点検を実施する

(2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つために、日常的な維持管理としてパトロール等の実施を徹底します。

5. 対象橋梁の長寿命化に関する基本的な方針

健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針とともに、予防的な保全を行うことにより、橋を長持ちさせ、修繕・架替えに係る費用を抑えながら橋の安全を確保します。

6. 定期点検

5年に1度の頻度で定期点検を実施します。

7. 費用の縮減

(1)新技術等の活用

今後、定期点検や施設修繕に際し、コスト縮減や効率化などを図るため新技術等の導入を検討します。当面の目標として、令和 9 年度までに、2 橋の横断歩道橋について新技術を活用した修繕を行い、約 6 百万円のコスト縮減を見込んでいます。

(2)施設の集約化・撤去

今後、社会経済情勢や施設の利用状況等の変化に応じて、横断歩道橋の撤去などにより維持管理費用の縮減について検討します。当面の目標として、令和 9 年度までには、1 巡目の点検結果よりⅢ判定となった橋梁のうち、利用状況が少なく地域との合意が形成された 2 橋の横断歩道橋を撤去します。

8. 代表的な損傷事例

事例① 鋼構造の損傷状況

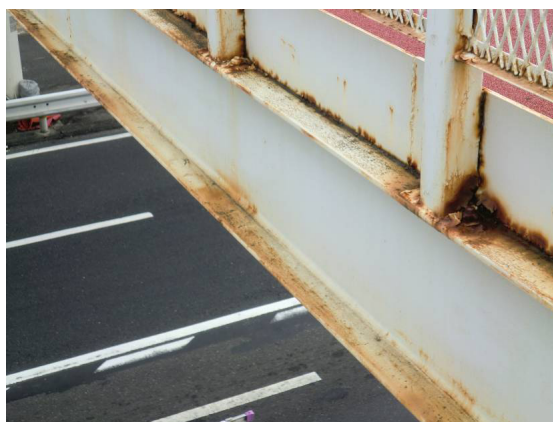


主桁やデッキプレート床版の塗膜劣化, 腐食



柱鋼管の塗膜劣化, 腐食

事例② 橋面の損傷状況



高欄の塗膜劣化, 腐食

9. 点検・修繕計画

今後の点検・修繕計画は、別紙の計画表に示すとおりです。優先順位付けに当たっては、第三者被害の懸念、主要部材の損傷有無、路線の重要性や横断歩道橋全体の健全度などを総合的に勘案して決定しています。

まずは、健全度Ⅲ判定の施設を優先的に修繕していくとともに、今後の点検結果により新たに健全度Ⅲ判定となる施設についても早期に着手します。また、利用状況などから必要性を検討し、関係者との調整が整った施設については撤去を検討します。塗膜にポリ塩化ビフェニル(PCB)が含有している歩道橋については、施設の健全度に係らず2026年度末を目標に塗膜除去に努めます。

今後も引き続き点検を実施し、その結果により適宜、計画の見直しを行いながら、道路利用者の安全確保を最優先として、計画的に横断歩道橋の長寿命化を図ります。

【計画改訂履歴】

平成 31 年 1 月	策定
令和 4 年 3 月	改訂
令和 5 年 7 月	改訂
令和 6 年 6 月	改訂

